越谷市内唯一の「庚申講」の銘文のある「手水石」

秦野 秀明

東越谷香取神社（越谷市東越谷一―一五―一三）境内に存在する「手水石」には、以下の銘文が刻まれている。

奉供養庚申講
武州小林観音寺
祐誉
金兵衛
源五（兵衛カ）
孫右ヱ門
（拾カ）兵衛
□左ヱ門
源左衛門
瀬兵衛
戈兵衛
□兵衛
兵右ヱ門
五右ヱ門
仁右ヱ門

手水石

元禄二己巳天九月吉日

※十三名の名前の解読は加藤 幸一氏による。

『新編武蔵風土記稿』には、「観音寺　無量山と號す、本尊十一面観音を案ず、香取社」と記載されている。

「手水石の銘文には、「十一面観音菩薩」の「種子（種子字）」である「キャ（ka）」が刻まれ、『埼玉の神社』には、「観音寺は現存せず、明治七年に廃寺となっている。氏子の観盈（みたらい）家は屋号を「観音寺」と称し、かつて当社の北一〇〇メートルの所に居住していたというので、この辺りがその跡地と思われる」と記載されている。

ゆえに、この「手水石」は、本来「観音寺」に存在していたものと推測される。

平水石

元禄二己巳天九月吉日

庚申講